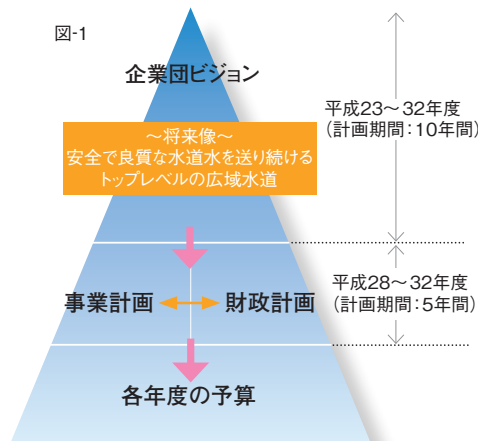


新事業計画を策定しました！ 事業計画（平成28～32年度）

1. 事業計画の策定について

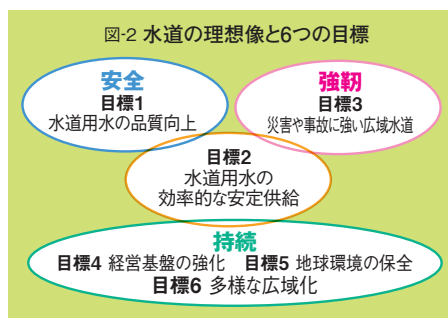
(1) 計画の位置づけ

本計画は、「かながわの水道用水供給ビジョン（平成23～32年度）～平成27年度フォローアップ版～」(以下「企業団ビジョン」)に掲げた施策群の実現へ向け、同ビジョン後半5か年間（平成28～32年度）に実施する工事等を定める『事業計画』として策定するものです。（図-1参照）



(2) 基本方針

「企業団ビジョン」では、掲げる将来像の実現に向けて6つの目標を定めています。これらの目標は、厚生労働省の「新水道ビジョン（平成25年3月）」が示す水道の理想像（安全・強靱・持続）に沿っています。（図-2参照）



これらの目標を達成するため、事業計画では次の6つに分類して事業を実施します。その中でも増加する「老朽化対策（施設更新・修繕工事）」及び地震発生時の安定供給を早期に確立するための「耐震化事業」に重点的に取り組みます。（図-3参照）

図-3 ビジョンにおける目標と事業の分類用

目標1 水道用水の品質向上	水道用水の品質向上
目標2 水道用水の効率的な安定供給	老朽化対策 施設更新 老朽化対策 修繕工事 管路保全
目標3 災害や事故に強い広域水道	耐震化事業 危機管理対策

＝重点的な取り組み

2. 重点取り組み事業の概要

(1) 老朽化対策（施設更新）

【平成28～32年度 事業費計：215億円】

●主要な取組み

(ア) 監視制御設備の計画的な更新
水運用センター・浄水場・ポンプ場の設備全体を監視・制御し、施設の根幹となる設備を更新します。

(イ) 薬品注入設備の計画的な更新
浄水処理の重要な役割を担う薬品注入設備を更新します。

(ウ) 伊勢原浄水場排水処理設備の更新
安定供給を維持するため、伊勢原浄水場の排水処理設備を更新します。

(エ) 管路整備を行うための検討
経年化した管路の更新の準備をするため、今後の整備が必要な路線について検討します。

(2) 老朽化対策（修繕工事）

【平成28～32年度 事業費計：91億円】

●主要な取組み

施設の長寿命化を図る修繕

浄水施設の構造物を中心に長寿命化を図るため、浄水場の沈でん池・ろ過池における防食塗装等の大規模修繕を実施します。

(3) 耐震化事業

【平成28～32年度 事業費計：89億円】

平成35年度の施設耐震化率100%を目指して次の施設の耐震補強を実施します。

●主要な取組み

(ア) 導水施設の耐震化

飯泉ポンプ場調圧水槽・相模原ポンプ場吸水井

(イ) 浄水施設の耐震化

相模原浄水場・西長沢浄水場

(ウ) 送水施設の耐震化

場内調整池（伊勢原浄水場・相模原浄水場・西長沢浄水場）及び場外調整池

(エ) ポンプ所の耐震化

相模原送水ポンプ所

トップレベルの広域水道に

神奈川県内広域水道企業団
企業長

吉川 伸治



このたび、神奈川県内広域水道企業団企業長に就任しました吉川伸治です。

当企業団は、昭和44年の設立以来、三保ダム及び宮ヶ瀬ダムによる安定水源を確保し、神奈川県、横浜市、川崎市及び横須賀市の水需要に対応するための水道施設整備を行い、水道用水の安定供給に努めてまいりましたが、企業団設立以来、増加を続けていた神奈川県の人口は平成30年頃には減少に転じると見込まれ、水需要も引き続き減退傾向にあります。企業団を取り巻く社会環境や財政環境は更に厳しくなるものと予想されます。

このような状況の中にあっても、私たちは、広域的な視点に立ち、より高いレベルの事業運営を実現・維持していくことが必要であると考え、「安全で良質な水道水を送り続けるトップレベルの広域水道」という将来像を掲げ、「かながわの水道用水供給ビジョン」として6つの目標を設定し、これまで取組みを進めてきました。

この「かながわの水道用水供給ビジョン」の目的達成のため、平成28年度から平成32年度までを計画期間とした「事業計画」と「財政計画」を新たに策定いたしました。これらの計画に基づき、「安全」「強靱」「持続」を重点目標として、これまでに引き続いて経営効率化と経営基盤の強化、水道施設の老朽化対策及び耐震化に着実に取り組み、持続性のある水道用水供給事業を推進してまいります。

どうぞよろしくお願いいたします。

企業団 NOW

安全・安心な水道用水の安定的な供給に向けて

平成28(2016)年度

予算の概要

平成28年度から、新たな5年間の事業計画、財政計画がスタートします。

水道利用者の皆様の生活基盤と社会経済活動を支えるため、新事業計画の下で、老朽化対策や耐震化事業等の施策に積極的に取り組みます。また、これらの事業を着実に実施する上で必要な財源を確保する一方、構成団体の受水費負担の軽減を図るため、用水供給料金を平均7.9%（単年度約31億円）引き下げました。

平成28年度予算は、新たな計画の初年度にあたり、料金引下げ後の料金収入など限られた財源で水道用水の安定供給に必要な事業を着実に、総額731億円の緊縮型予算としています。

■用水供給先

神奈川県、横浜市、川崎市及び横須賀市

■構成団体への予定供給水量

- 年間総供給量 495,057,700m³（前年度比93.5%）
- 1日平均供給量 1,356,322m³

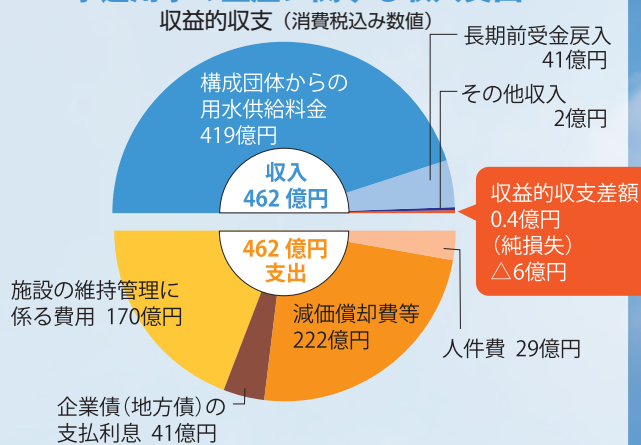
■事業計画の着実な実施

- 「水道用水の品質向上」
水質管理の強化 約1億円
- 「水道用水の効率的な安定供給」
老朽化対策ほか 約58億円
- 「災害や事故に強い広域水道」
地震対策ほか 約41億円

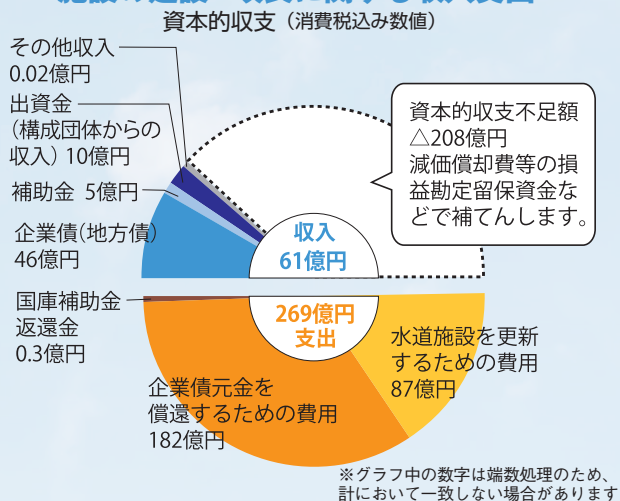
■経営基盤の強化

- 企業債（地方債）残高の逓減及び必要な運転資金の確保
- 経営改革の基本方針に基づく総人件費の抑制

水道用水の生産に関する収入支出



施設の建設・改良に関する収入支出



※詳しくは下記神奈川県内広域水道企業団のホームページをご参照ください

プレゼントコーナー



「みずき便り」読者の中から、抽選で5名の方に企業団オリジナルの「やまなみ五湖のブレンド水」340mℓ缶1ケース（24本入）をプレゼントします。ご希望の方はハガキ、FAXまたはメールで、住所／氏名／電話番号／年齢／職業を明記の上、下記までお寄せください。その際、今号の内容へのご意見・ご感想も忘れずにお願いたします。

応募締め切り：6月30日（木）必着 ※当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます

応募先：〒231-8445 横浜市中区太田町2-23 神奈川新聞社クロスメディア営業局内「やまなみ五湖のブレンド水プレゼント」係 FAX.045-227-0765 kokoku@kanagawa-np.co.jp

●プレゼントに関するお問い合わせは ☎045-227-0804 までお願いいたします。



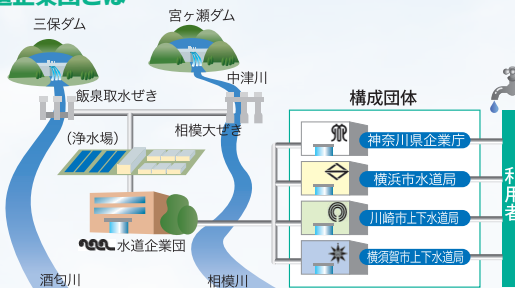
編集後記

みずき便り特別号が完成しました。本号では、当企業団で今年度からスタートした5か年（平成28年度～平成32年度）の事業計画今年度予算の概要等を掲載しました。次号以降は、通常号の発行を予定していますが、この広報誌を通じて、様々な視点から読者の皆様に水の大切さや当企業団の果たす役割等をお伝えできるよう、誌面作りに取り組んでまいりますので、引き続きよろしくお願いたします。

（総務・広報グループ）

神奈川県内広域水道企業団とは

三保ダムと宮ヶ瀬ダムに貯めた水を浄水処理し、構成団体を通じて、利用者の皆様に、安全で安心な水道水を供給している「特別地方公共団体」です。



発行／平成28年5月 神奈川県内広域水道企業団
〒241-8525 神奈川県横浜市旭区矢指町1194番地

TEL.045-363-1111（代表） FAX.045-363-1121
http://www.kwsa.or.jp

神奈川企業団 検索